

第 64 回神奈川建築コンクール一般建築部門 最優秀作品選評

「開成町庁舎」

審査委員 鈴木 信弘

小さな町で実現した、日本初の ZEB 認証(81%削減:Nearly ZEB)によるゼロエネルギー庁舎である。脱炭素社会実現に向けて大きな貢献をただけでなく、環境技術の断片的な採用に陥らずに建築意匠・構造・環境の三位をバランス良く統合するための空間デザインを模索し実践したことが高評価となった。

配置計画は災害時の一時避難やボランティア活動の拠点となる広場を地政学的な町の中心に整備した北向き構えである。水平に広がる庇に上下を挟まれた木製格子が軽やかに浮かぶ外観は印象的であり「人と自然が調和し、未来に残す自然との共生を語る田舎モダン」というこの町のコンセプトが明快に表現されていると感じた。

全体構成は3つのゾーンからなる。サポートゾーンは小部屋を中心とした剛性確保のための鉄筋コンクリート造、執務室はロングスパンが可能な鉄骨造、そして町民プラザは鉄骨+木質である。吹き抜けの大きなガラス面を持つ庁舎だが、外的熱負荷による影響は全体を取り囲む深さ 3m の大庇によって限りなく小さい。空間的特徴にもなっている木格子と格子天井は、町の花であるアジサイをモチーフにしたとのこと。意匠的なデザインかと思いきや菱形の集成角材パネルが日射遮蔽と筋かいとして偏心の解消のために用いられ、千鳥状の天井木格子は梁の横補剛材でありながら輻射空調と照明反射パネルが組み込まれた構造でもあり環境装置でもある。さらに太陽光発電システムや富士箱根水源を基とする豊富な水資源を利用した輻射空調システム等によって、旧庁舎の使用していた一次消費エネルギーを 85.5%削減するなど画期的な結果をもたらしている。定期的な環境測定、生活環境アンケートなど庁舎の消費エネルギーの削減に影響する照度・温湿度環境の目標値の絞り込みや運用指標を継続していることにも好感が持てる。